

学校図書館だより



2016年 3月 16日
 横浜市立森の台小学校
 校長 田中 公明
 図書主任 清水あゆみ
 学校司書 近江弥穂子

No. 11

学年末になり、本の貸し出しができなくなってからも、学校図書館に本を読みに来る子が何人もいて、学校図書館の本を楽しみにしてくれていて嬉しいです。次の学年への進級に関わる事務処理などのために、しばらくの間、学校図書館で本を借りることができません。借りられないのは残念だと思いますが、この機会に緑図書館やコミュニティハウスなど、他の図書館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。学校図書館には置いていない本との素敵な出会いがあるかもしれません。

図書室からのお知らせ

- 学校図書館の休み時間の利用は3月17日（木）までです。
- 不明の本が何冊かあります。学校図書館の本を見かけたら返却してください。

先生のおすすめ本

奥田先生（2-5）

「私の手が語る」

本田宗一郎著

山本先生（1-1）

「シートン動物記」

シリーズ

シートン著

船木先生（1-2）

「しごとをとりかえた

だんなさん」

ノルウェーの昔話

山手先生（1-5）

「だるまさんが」

かがくいひろし作

たった一度の人生をどうすれば楽しく、気に染んだものとしてつかまえることができるかと考えたホンダの創業者のエッセイです。

「読書力」

齋藤孝著

「本を読むことの意味はなんだろう？」

そんな疑問に答えてくれる本です。本を読むことで身に付く沢山の力がわかります。また読み聞かせの効用なども記載されています。

シートンは若いころから死ぬまで大自然に生きる動物たちを観察し続けました。その観察と猟師などから聞いた話をもとにしてできた動物物語がシートン動物記です。人間とオオカミの知恵比べや、自分の家族を必死に守った銀狐の話、最後まで人間に屈服しなかったクマのジャックの冒険物語などいろいろなお話があります。

「うちのなかの仕事なんて楽なものだ」と言っただんなさんは、おかみさんと仕事をとりかえることになりました。おかみさんは畑仕事へ、だんなさんは家事をすることに…うちのなかの仕事なんて簡単だと思っていただんなさんでしたか…

テンポがよくて、おもしろくて、読んでいて思わず「ブツ」とわらってしまいます。1年生も大人も楽しめるすてきな絵本です。

トピックス ～J・K・ローリング～

J・K・ローリング(1965-)は、「ハリー・ポッターシリーズ」の作者として有名なイギリスの作家です。本名はジョアン(Joanne)・ローリングと言います。ペンネームのJ・K・ローリングは、本のターゲットとなる男の子が女性作家の作品だと知りたくないだろうと心配した出版社が、イニシャルを用いるように求めたため、このような名前になったそうです(ちなみに「K」は、祖母のキャスリーン(Kathleen)にちなんで入れたそうです)。子供時代から物語を書くことが好きで、6歳のときに早くも「ラビット」という名前のウサギの話を書きました。本人は将来、文学方面に進みたかったようですが、両親の希望でエクセター大学に進学した後、秘書として働き始めました。しかし、仕事にはあまり興味を見出せなかったようです。1990年の夏に、マンチェスターからロンドンに向かう列車の中で、魔法学校に通う少年ハリー・ポッターの話我突然、思い付き、自宅に帰ると、その晩のうちにすぐに執筆を始めました。その後、転職、結婚そして離婚、と彼女の人生が過ぎていきますが、離婚後、シングルマザーとして生活保護を受け、生活が苦しく貧しい中で、娘の存在にも支えられながら、ハリー・ポッターの話を書き進めていきます。1997年に、第1作である「ハリー・ポッターと賢者の石」が刊行されました。執筆と子育てとを両立させるため、ベビーカーに子どもを乗せて散歩に出し、眠った後に近くのカフェでコーヒー一杯でねばり、執筆をしたという苦労話もあったそうです。同書は多数の外国語に翻訳され世界的ベストセラーとなり、子どものみならず多数の大人にも愛読され、児童文学の枠を越えた人気作品として世界的な社会現象となりました。また、2001年から8本のシリーズで公開された同書の映画版(2011年完結)も大きなヒットを記録しました。

ゲームに夢中だった世界中の子ども達が、本屋さんや図書館に列を作って読みたがったという『ハリーポッター』シリーズは、学校図書館でも人気の本です。まだ読んでいない人は是非春休みに読んでみてください。

今月のおすすめの本

NHK ドラマにもなります

「世界のむかしばなし」

「おかえりなさいはやぶさ」

「精霊の守り人」

瀬田貞二 訳
太田大八 絵

2592日の宇宙航海記

吉川真 監修

シリーズ

上橋菜穂子 著

「くぎスープ」ってどんなスープでしょう? 「この世のおわり」がやってくるというから逃げたみんなは、びくびくして待っていてもなにもかわりません。そのうちお腹がすいてきて…世界のむかしばなしから選んだゆかいなおはなしがいっぱいの1冊です。

2003年5月7日(ちょうど6年生が生まれた年です)に打ち上げられて、2010年6月13日に大気圏で燃え尽きた探査機「はやぶさ」。2592日で約60億キロメートルも飛行を続けた「はやぶさ」とは、一体どんな探査機だったのでしょか。この本は7年にわたる「はやぶさ」の奇跡の航海記です。

腕のたつ用心棒、バルサはある日、皇太子チャグムの命を救う。精霊の守り人であるチャグムは命を狙われていて、バルサはチャグムの用心棒となる。逃げる2人を追う影の正体は…
バルサとチャグムと一緒に旅ができる本です。

編集後記

「本をよく読むことで自分を成長させていきなさい。本は著者がとても苦労して身に付けたことを、たやすく手に入れさせてくれるのだ」というソクラテス(古代ギリシャの哲学者)の言葉があります。本を読むことで、他人の知識や経験から学ぶことができます。自分でいちから取り組むよりもずっと近道になることもあります。忙しい毎日の生活でなかなか本を読む時間はないという話も聞きますが、もしかしら、忙しい人ほど本を読むことで時間が節約できるかもしれません。学年が上がるにつれて忙しくなってきますが、みなさんの生活の中にいつも本が身近にあることを願っています。 学校司書 近江